

病理診断科

【研修目標】

一般目標 GIO :

病理検査を有効に利用できる医師となるために、診断病理学の概要を理解し、各科との良好なコミュニケーションに心がけ、適切な病理検体の取扱い方を習得する。

行動目標 SBOs :

- 1) 組織診と細胞診の違いを説明できる。(想起)
- 2) 病理標本(組織診・細胞診)の作製手順を列記できる。(想起)
- 3) 各種特殊染色および免疫染色の目的を説明できる。(想起)
- 4) 病変の肉眼的所見を記述できる。(解釈)
- 5) 各臓器の正常組織像を識別できる。(解釈)
- 6) 基本的な病理学的所見を抽出できる。(解釈)
- 7) 確定診断のために必要な追加染色および確認すべき臨床情報を提示できる。(問題解決)
- 8) 病理診断に基づいて治療方針を立案できる。(問題解決)
- 9) 主治医に必要な臨床情報を照会する。(態度)
- 10) 各科との臨床病理検討会に積極的に参加する。(態度)
- 11) 手術検体の撮影、張り付け、ホルマリン固定が適切にできる。(技能)
- 12) 癌取扱い規約に準じた各臓器の切り出しができる。(技能)
- 13) 病理解剖の介助や記録ができる。(技能)

【研修方略】

研修期間 : 2年次選択。

ローテート開始前に指導医と面談し、各々のニーズに対応した研修目標および研修期間を設定する。

研修内容 :

方略	SBOs	方法	人数	場所	時間	媒体	指導者・協力者
①	1)-8)	小講義	1人	カンファ室	各30分	PC	上級医・指導医
②	1)-3)	実務研修	1人	病理検査室	適時	実物	検査技師・上級医・指導医
③	4), 11)-12)	実務研修	1人	切出し室	適時	実物	上級医・指導医
④	3), 5)-9)	実務研修	1人	病理診断室	適時	実物	上級医・指導医
⑤	4), 11)-13)	実務研修	1人	病理解剖室	適時	実物	上級医・指導医・検査技師
⑥	7)-10)	カンファレンス	1人	カンファ室	各60分	PC	上級医・指導医

- ① 小講義形式にて診断病理学の基本的事項を学ぶ。
- ② 検査技師および上級医・指導医の説明の下、病理標本作製の手順を理解し、包埋・薄切・

染色などを体験する。

- ③ 手術材料をもとに、検体の取扱い方、肉眼所見の取り方、切出し方法を学ぶ。
- ④ 病理標本をもとに、組織学的所見の取り方や診断に至るまでの思考過程を学ぶ。また、病理診断報告書の作成にも携わる。
- ⑤ 病理解剖に立ち会い、上級医・指導医の下で第一助手として剖検介助をしながら、解剖手技や肉眼所見の取り方を学ぶ。また、剖検録の記載をする。
- ⑥ 各臨床病理検討会に出席して、積極的に討論に参加する。

週間スケジュール：

	月	火	水	木	金
午前	検体切出し 病理診断	検体切出し 病理診断	検体切出し 病理診断	検体切出し 病理診断	検体切出し 乳腺カンファ 病理診断
午後	病理診断	病理診断	病理診断	病理診断	病理診断

- * 夜間当直明けは業務なしで帰宅とする。
- * 上記以外の時間帯は標本作製に充てる。
- * 不定期に術中迅速診断や病理解剖が行われる。

【研修評価】

研修中にフィードバックを繰り返し、形成的評価を行う。

SBOs	領域	目的	方法	測定者	時期
1)	想起	形成的	口頭試験	上級医・指導医	ローテート中 適宜
2)	想起	形成的	口頭試験	検査技師・上級医・指導医	方略②終了時
3)	想起	形成的	口頭試験	上級医・指導医	ローテート終了時
4)	解釈	形成的	口頭試験	上級医・指導医	ローテート中 適宜
5)	解釈	形成的	口頭試験	上級医・指導医	ローテート終了時
6)	解釈	形成的	口頭試験	上級医・指導医	ローテート終了時
7)	問題解決	形成的	口頭試験	上級医・指導医	ローテート中 適宜
8)	問題解決	形成的	口頭試験	上級医・指導医	ローテート中 適宜
9)	態度	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテート中 適宜
10)	態度	形成的	観察記録	技師長・上級医・指導医	方略⑥終了時
11)	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテート終了時
12)	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	ローテート中 適宜
13)	技能	形成的	観察記録	上級医・指導医	方略⑤終了時